



弁天池で再発見されたイノカシラフラスコモ (5月撮影)

水草復活!



▲細く繊細なイノカシラフラスコモ。シャジクモ(車軸藻)の一種。

よみがえった 絶滅危惧種

昨冬に行われたかいぼり27の後、井の頭池では池水の透明度が向上し、水草が再生している。なかでも59年ぶりに生育が確認されたイノカシラフラスコモの発見は、かいぼりの成果として新聞各紙で報道された。

イノカシラフラスコモ、待望の目覚め

かいぼり後の井の頭池の池底から、絶滅危惧種の水草イノカシラフラスコモが発芽しているのが確認された。59年ぶりの再発見である。イノカシラフラスコモは、1957年に井の頭池や神田川最上流部で発見され、井の頭池にちなんで命名された。しかし、発見から間もなくして、湧水が枯渇したために生育が見られなくなり、絶滅したと考えられていた。その後、1986年に市川市のじゅん菜池緑地に生育しているのが確認され、以来30年、自生地として知られているのはこの1ヶ所のみであった。環境省のレッドリストでは絶滅危惧1類(絶滅の危機に瀕している種)に指定されている。今回、井の頭池では弁天池を中心に約1500株のイノカシラフラスコモが確認された。また、水草再生に向けた取り組みとして、かいぼり中に池底から採取して容器に撒き出した土壌からも本種の発芽が確認された。今回の発見は、かいぼりの成果として新聞各紙でも報道された。

壮観! 池一面の水草

かいぼり27の後には、イノカシラフラスコモのほかにも在来の水生植物7種が確認されている。もともと自立つのがツツイトモだ。ボート池を中心に大群落を形成しており、水面いっぱい広がる様子が園路からもよく観察できた。ツツイトモは2年前のかいぼり後から生育していたが、今年には特に生育量が多く、切れ藻が池全体に漂っていた。6月には



▲水面いっぱいのツツイトモ

水面にまで伸長して花を咲かせ、都会の池とは思えない見事な景観であった。

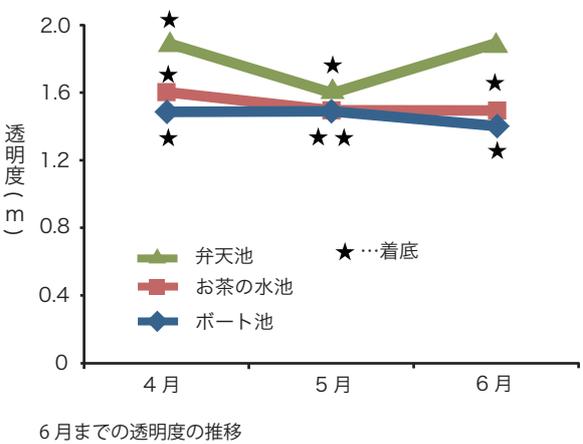
ツツイトモも環境省のレッドリストで絶滅危惧II類に指定されている貴重な水草だ。これらの水草が引き続き井の頭池で生育していけるように、生育状況のモニタリングを継続していく予定だ。

水草復活のカギは透明度にアリ!

こんなにもたくさんさんの水草が復活したのはなぜだろうか? その要因のひとつは、かいぼり後に向上した池水の透明度だと考えられる。

かいぼり27の後、井の頭池の水は、かいぼり前とは見違えるほどきれいになっている。4〜6月に行われた透明度調査では、すべての調査地点で池底まで見通せる(着底)結果になった。かいぼり27では、1ヶ月以上の間、池底を干し上げて底泥の酸化・脱窒を促進し、水質の改善を図った。ほかに、底泥を巻き上げて水を濁らせてしまうコイなどの外来魚を取り除いたことも功を奏している。こうして透明度が向上し、池底まで日光が届くようになったおかげで、水草の種子が発芽したり、生長できるようになったのだらう。

7月以降は、梅雨時の少雨の影響か、透明度が下がってきた。それでも前年の同時期よりも透明度が高い。透明度向上、水草復活、さらには水草を利用する生物の増加など、井の頭池の自然はかいぼりによって着実に、井の方向へ向かい始めている。



いけいけ! かいぼり隊
イクメン イケガール
〜池男 & 池女、地下水を学ぶ! の巻〜



▲透明度を測定する井の頭かいぼり隊



▲水面下のフィンも見えるほど透明だった

5月23日、井の頭かいぼり隊のスキルアップ研修を行った。今回のテーマは武蔵野台地の地下水だ。守田優氏(芝浦工業大学教授)を講師に招き、3時間みっちり地下水漬けの研修となった。

この日のかいぼり隊は、心なしかこれまでの研修よりも眼差しが真剣だ。3月まで行っていたかいぼりで、池底のいたる所で湧水を確認していたこともあり、地下水への関心が高まっている。かいぼり隊からは「地下水のことは気になってはいたけど、なかなか聞く機会がなかった」「湧水のしくみや、どうして枯渇したのか、長年の疑問が解けた」という感想が上がった。

Topics

水鳥のヒナが順調に育っています



▲ヒナにモツゴを与えるカイツブリ

今年の水鳥の頭池は、ヒナ連れの水鳥たちが賑わっています。現在、少なくともカイツブリは5組、バンは1組、カルガモは5組のつがいの子育てをしています。小魚を食べるカイツブリは、2回目の繁殖を始めたつがいも見られます。

これだけの水鳥が順調にヒナを育てられるのは、昨冬のかいぼりと大いに関係があります。かいぼり後の井の頭池では、大型の外来肉食魚が激減し、モツゴなどの在来魚の稚魚が多く確認されています。バンなどの食物になる水草も再生しました。在来種で賑わう池に変わってきているのですね。

現在、水鳥の姿は池の各所で見られますが、繁殖期は親鳥は神経質になっています。巣やヒナには近付きすぎず、遠くから温かく見守って下さいね。



▲講師の守田氏を囲んで記念撮影

来年度に予定されている3回目のかいぼりに向けて、かいぼり隊の修行はこれからも続いていく。



園路をよく歩き回っています。エサをやらないでね!

最近のバンたち

▲子だくさんの家族